

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2871200438		
法人名	有限会社 シンセイケア		
事業所名	グループホーム三輪		
所在地	三田市三輪二丁目13-16 (電話) 079-553-8820		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年10月2日	評価結果確定日	平成21年11月26日

【情報提供票より】 (21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27人	常勤6人, 非常勤20人, 常勤換算9.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有 (300,000円)	無 (敷引き150,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (〇 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	費用負担なし 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	2	要介護2	8		
要介護3	7	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤原内科・富田クリニック・嶋谷歯科・竹本整形外科 東浦心療内科
---------	------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気の下で、地域にとけ込み、地域住民の一員としての生活を支援することを理念として掲げ、自然な形で地域住民との交流が図られている。職員は施設の理念としている高齢者の尊厳とプライバシーの保護を理解し、日々の生活の中でその人に合わせた言葉かけや対応を行ない、利用者ひとりの尊厳を大切にしたいケアを実践している。ホームの前には菜園があり、草花が季節感を感じさせている。玄関周辺は家庭的で利用者・家族にもなじみやすい雰囲気である。廊下・各部屋・台所・居間の隅々までは清掃・整理が行きとどいている。また、利用者にとって食事が楽しいものになるように、地域で収穫された季節の食材を使って手作りの食事を提供している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	休憩室に前年度評価結果を掲示し、職員が確認できるようにしている。評価結果を基に、改善可能な項目から改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価作成は、前年度の自己評価を基に代表・ホーム長・計画作成担当者等参加し自己評価を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	市の職員・民生児童委員・家族代表・入居者代表・施設の代表・ホーム長・計画作成担当者等参加して、2ヶ月に1回定期的の実施している。会議内で参加者に次の提案を受けている。提案がなければホーム側より提示し次回の議題話し合っている。市とは適宜連携を持っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	運営に関しての家族の意見・要望は家族来所時の面談や家族会・運営推進会議で聞き取るようにしているが、家族会では意見が出にくいと感じており、家族の参加を多くしてもらえるように働きかけている。家族来所時の面談は、各フロアの責任者が行い、面談内容はホーム長に報告している。苦情や大きな不満はホーム長が対応してしている。職員・ホーム長が行った面談は議事録に残している
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	開設当初より地域の理解があり、地域とのつながりに向けての取り組みに協力的な環境が整っている。ホームでの行事に自然な形で地域のボランティアや地域住民の参加が得られている。また地域の行事にも地域からの声かけがあり積極的に参加している。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての内容を明文化した運営理念を職員・利用者・家族の見やすい位置に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員心得の中に理念に基づいたケアの実践を記載している。また、研修会や会議の席で管理者より理念に基づいた内容の話をし、職員が迷った時には、理念に立ち戻りケアの振り返りが出来るように話している。玄関・階段・従業員休憩室にも理念を掲示し常に目に触れる環境を作り認識するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より地域の理解があり、地域とのつながりに向けての取り組みに協力的な環境が整っている。ホームでの行事に自然な形で地域のボランティアや地域住民の参加が得られている。また地域の行事にも地域からの声かけがあり積極的に参加している。		ボランティアの登録票・受け入れ票・活動記録の作成が望ましい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>休憩室に前年度評価結果を掲示し、職員が確認できるようにしている。評価結果を基に可能なところから改善している。今回の自己評価作成は、前年度の自己評価を基に代表・ホーム長・計画作成担当者等参加し自己評価を作成した。</p>		<p>職員に評価をどのように理解させているかを問われている項目である為、職員への周知方法についても検討必要である。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市の職員・民生児童委員・家族代表・入居者代表・施設の代表・ホーム長・計画作成担当者が参加して、2ヶ月に1回定期的の実施している。会議内で参加者に次の提案を受けている。提案がなければホーム側より提示し次の議題話し合っている。会議出席者に介護保険課課長又は係長の参加もあり市への情報提供も行い易い状況にあり、提供した情報はスムーズに反映されている。家族会で運営推進会議への出席代表者を選任してもらっている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市とは適宜連携を持っている。相談員派遣事業が始まる予定であり、市の方から順次派遣するとの連絡を受けている。現在までにまだ実施されていないが、ご利用者に相談員が話を聞き、市に持ち帰り利用者の思いや話の全体に向かって報告がなされる予定である。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の身体状態・生活状況については家族面会時や電話等で伝えるとともに、職員から利用者の状況を確認して、月末にホーム長が個別に文書を(手紙)を記載し送付している。体調等に变化がある場合は随時電話で連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に関しての家族の意見・要望は家族来所時の面談や家族会・運営推進会議で聞き取るようにしているが、家族会では意見が出にくいと感じており、家族の参加を多くしてもらえるように働きかけている。家族来所時の面談は、各フロアの責任者が行い、面談内容はホーム長に報告している。苦情や大きな不満はホーム長が対応してしている。職員・ホーム長が行った面談は議事録に残している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率は良く3年以上の勤務が6割になっている。利用者との馴染みの関係が継続できるように、可能な限りフロア専任を基本として、利用者に行き届いたケアができるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修は年間「計画」を作成して、常勤・非常勤含めた職員の内部研修を定期的実施している。代表・ホーム長は研修の必要性を十分理解しており積極的に研修参加を促している。外部研修に関しては、案内を提示し参加を勧めている。研修受講後、報告会の実施により職員間で情報共有している。		研修の全体の履修記録はあるが、研修後の詳細な実施記録の作成が望ましい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月毎に開かれる市内の連絡協議会に出席している。市の介護保険課の参加があり必要な情報提供を受けたり、情報を提供したりしている。病院関係者参加して認知症高齢者支援情報交換会を3ヶ月に1回開催があり、病院の空き情報の提供があり認知症の高齢者の入院を積極的に受ける取り組みも行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず見学し、職員・利用者の雰囲気を感じていただくようにしている。昼食を共にして、ホームの普段の生活を体験して納得して利用に至るように支援している。利用者個々の状況に合わせて馴染みの関係が築けるように心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活することを理念に掲げ、職員は、理念を念頭において利用者が自然に生活に溶け込めるよう心がけ、日々のケアの実践に努めている。ホーム長・職員は利用者一人ひとりの力が発揮できるよう、こまめにADLや細かな状況の報告や連絡を行うように取り組み、利用者と共に過し、介護を受ける一方的な関係にならないように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の生活状況を把握すると共に、利用者との時間を大切に、個別の対応を積極的に行い、一人ひとりの思いを受け止めながら理お湯者一人ひとりの尊厳を損なわないよう声かけ・関わりをしている。利用者がその人らしく暮らしが続けられるよう職員間で情報を共有し、実践に努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族から収集した情報や受け持ち担当者・職員からの情報を出し合い個別の具体的な介護計画を作成している。職員は介護計画を把握し認識しながらケアを実践している。介護計画は、家族に説明され同意を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	連絡ノート・会議録により職員間で情報を収集している。評価日を記録して3～6ヶ月に1回、設定した時期に評価し、見直しを行っている。利用者の状態変化が見られた場合は随時の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に添って個別の外出支援・通院・買物同行を実施し、利用者一人ひとりの必要や希望に応じて支援している。家族の状況に応じて家族に代わり職員が病院受診に付き添っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が定期的に往診し、処方薬局より薬が届けられる。月1回専門医の往診があり、歯科・耳鼻科・整形は必要時に受診している。看護師を毎日1名配置し、利用者の健康管理・受診状況・内服薬の把握をして、介護職へ解りやすいように説明している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う看取り指針を作成している。入居者が重度化した場合に家族・本人・医師の希望があれば受け入れる意向はあるが、入居時に「重度化に伴う看取りの指針」を家族に説明し同意を得るようにしている。家族にとって適確な対応ができるよう、話し合いを重ねていくよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員は施設の理念としている高齢者の尊厳とプライバシーの保護を理解し、日々の生活の中でその人に合わせた言葉かけや対応を行ない、利用者ひとりの尊厳を大切にされたケアを実践している。特に入浴・排泄介助時はプライバシーへの配慮に気をつけている。また各居室の入り口には長のれんを掛けプライバシーに配慮するなどの工夫をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームの基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりの生活のリズム・意向を尊重し、1日を通してして本人のペースに合わせた支援を行ない、利用者の自立に向けての支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材搬入は地域の市場から地元で取れた季節の新鮮な食材を搬入してもらっている。食事は調理員が職員として配置してあり昼・夕と調理している。職員は、朝食に一品つけること・夕食は温めるだけを行うようにしケアを重点的に行えるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は個浴になっている。入浴介助時はコミュニケーションを取りながら全身観察の機会としている。朝夕は寝衣の交換時も裸になり観察を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字教室を開き利用者の作品の添削をしてもっている。編み物掃除など利用者個々の趣味や嗜好などを生活歴から把握し、日々の楽しみごとや気晴らし・役割に活かしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩は実施しており周辺の田んぼや河川敷を通り季節を感じながら気分転換できるようにしている。希望によりドライブ・個別の外出も行って、日々の生活に変化を持たせている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時間帯により安全確保のため施錠することがあるが、極力解放している。職員は施錠の弊害を理解し、利用者が閉塞感を感じないように各居室入り口は解放されている。来訪者が多いため玄関は施錠しインターホンで対応するようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年数回の消防訓練を行っている。施設内は昼夜想定した訓練を最低年2回以上実施している。保存食・水の備蓄もフロア別で行っている。今後も備蓄の充実を図る予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な食材を使い、栄養バランスや摂取カロリーに配慮している。食事摂取量・水分摂取については記録され職員間で共有している。水分補給に心がけ入居者の脱水予防に努めている。毎食後の口腔ケアを徹底し誤嚥や感染症の予防に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの前には菜園があり、草花が季節感を感じさせている。玄関周辺は家庭的で利用者・家族にもなじみやすい雰囲気である。廊下・各部屋・台所・居間の隅々までは清掃・整理が行きとどき清潔である。廊下の壁には季節感のある写真・絵を飾り、落ち着いた雰囲気を感じられる。廊下にソアを置き思い思いに過ごせるように配慮されている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの調度品が持ち込まれ、手芸類や飾り等個性のある部屋作りが出来ており、その人らしくゆったりと過ごせる居室になっている。		

は、重点項目。